

1886. MERTSCHNIKOFF—Embryologische Studien an Mieschen.  
7tes Capitel—Genealogische Betrachtung P. 126-159.

159.

此章最も有益なり初め Germ-layer theory より起し後生動物發生の諸説を列記し評しあり。

American Naturalist 12 H. V. Wilson の譯文あり

1894. SEDGWICK—Inadequacy of Cellular theory (Q. J.

37.



● 日本蟹類通説 (第拾五回)

寺崎 留吉

◎ ペリせり族

PERICERIDAE, Miers, 1879.

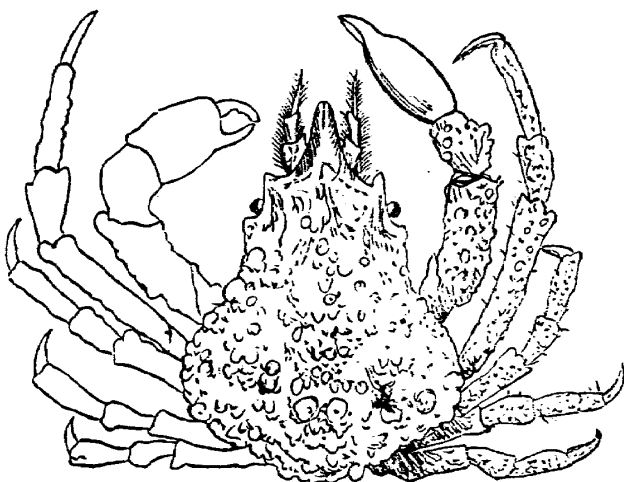
眼は比較的によく眼窩も小且つ深き穴にして周壁完全なり大觸角の基礎良く發育して眼窩の下壁を構成す本邦産のもの左の一屬にして亞族 Pericerinae, Miers. に隸す

● ちありに屬 *Tharionia, Dana, 1852.*

甲殼梨子狀にして頭角は二岐すれども相互に接近して頂端のみ微に左右に曲斜す眼窩小くして他屬の如く筒狀に突起せず眼窩の上には鈍き小棘あり大觸角の基礎は齒針の著しきものなく唯僅かに外方に向ふて小突起あるのみなり甲背は疣粒を布散し鉗脚は步脚と同様の長さを有す

ちありにあ

*T. conriggera (M. Edu. ) Dana, 1852.*



ちありにあ (自然大)

(235)

|| *Pisa cornigera*, Latreille, 1825.

|| *Pericera cornigera*, Milne-Edwards, 1835.

甲殼並脚の背面は一圓に大小の疣粒を布き詰め粗毛之れに交る腹面は概して短き絨毛を蒙る頭角長からず其左右に稍や扁平なる大觸角の出づるを見る甲背の疣中最も著しきものは心臟部の隆起の上に三個比較大なるものあり鉗は善く發育し雄にありては剪爪の間を廣く開き末節の爪より小き塊狀の齒一個を具ふ步脚適度に發達し末端に鉤爪を帶ぶ。

一 相模三崎(?) 雄四、雌三、

二 全 城ヶ島 雄一、

三 安房小湊 雄一、(一八九一年七月)

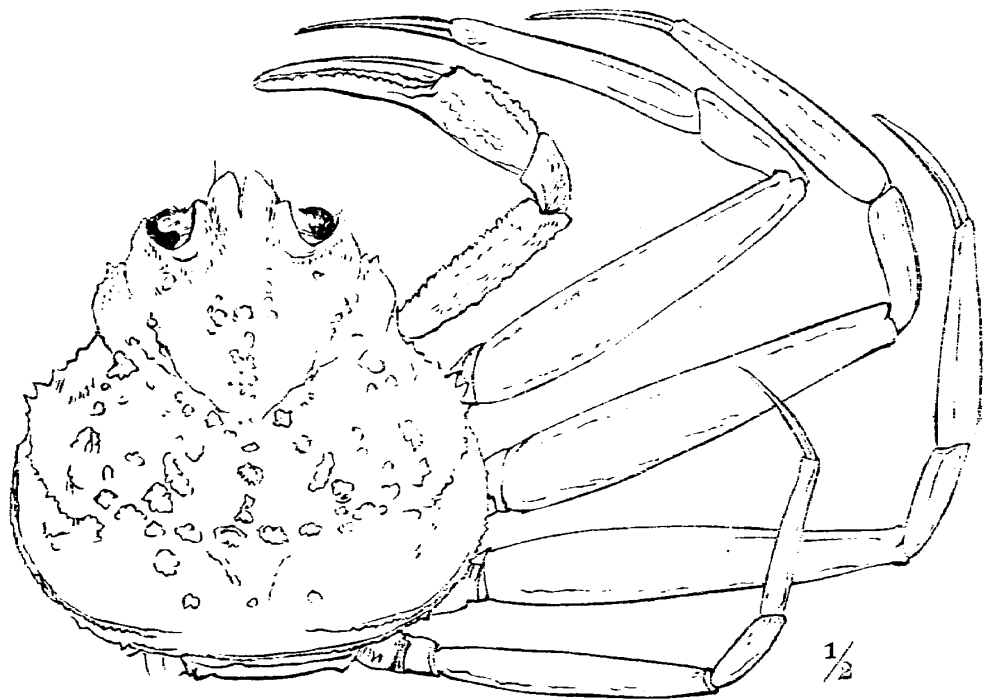
四 琉球那覇 雄三、(一九〇〇年一月宮島幹之助氏)

補遺

銳頭類を完結(自第九回到第五回)するに際し本類中の遺漏を拾ふて左に補述せん。とす。

たらばかに

日本蟹類通説(寺崎)



九

に か ば ら た  
(圖 縮)

*Chionoecetes opilis*. Kröyer.

(イナックス族に入る)

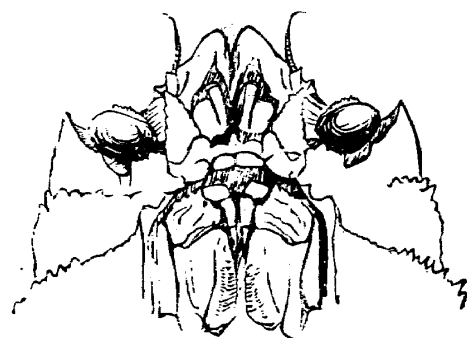
日本海北部の産にして我邦北陸道沿岸にて屢捕漁せられる其肉の美味なるを以て賞せらる形大にして實に本邦大蟹の一なり學名種屬の記載せるもの極めて罕なり近頃北米合衆國より寄贈せる北太平洋の標品に對比して此の學名が略は適當せるを發見したり但し北米標本は形小なるが果して幼兒なることなれば正鵠を認むるを得。

一、越前沿海 雄一、雌一、(乾製)

二、青森灣 雄二、(一九〇〇年七月池田岩治氏)

甲殼の輪廓は略ぼ等邊三角形にして甲尻は適度に彎曲す厚さは寧ろ扁平にして頸部稍や縊られて窪めり頭角は短き一對の齒となり眼窩は不完全、其前壁に棘を具へす窩後は少く突起して三角形の棘となる甲背の各部微かに區別せられ前半は大小不規則の塊狀の疣を散布し後半は粟粒を以て被ふ而て棘針の類一も備へす唯頰部より甲側に亘る稜線の上に前より次第に後に向つて大くなれる所の小針疣を列生す針疣は終に尋常の塊狀疣に移りて甲側鰓

腔部に連綿して消滅す、大觸角は基節極めて簡單にして眼窩と小觸角竇との融壁をなす大觸角極めて短かく頭角の左右に位して長さ頭角に及ばず眼は太く短くして横出し、角膜より裸出せる部分には毛絨を蒙る、顎脚に著しき點



たばらた (頭) 部なし腹節は雄は長梯形、雌は圓形をなす 鉗脚は比較に小さくして齒狀の細疣を密に 散布し鉗は細長、基

部は稍太く、兩剪爪の中間に空隙を残さず鋸齒を列生す、歩脚稍や扁平第二步脚の最長節は甲殼の長徑と略ぼ等長なり發育したる標本にては此の節には鉗節同様の齒疣を密生す幼稚なる標本にては體に一般に微かなる絨毛を蒙れども成長したる乾製品には全く之を脱落せり。大なる標本にては甲殼の徑七八寸に達し第二步脚の全長一尺五寸に及ぶ。

(237)

此の蟹に前記米國標本の (*Ch. opilis*, *Kröyer*. に比較するに甲殻の大なること歩脚の稍や短かきかと覺ゆることは是れなり他に異狀を發見せず若し寄贈品が果して幼稚の蟹にして其發育中歩脚が稍縮小すること確かに瞭なるに至らば全く同一種なることを得。

●おれごに屬 *Oregonia*, *Dana*, 1852.

(いなくす族に入る)

甲殻は長梨形にして前端伸びて長さ一對の頭角となる頭角は大部分平行して先端左右に曲斜し銳尖をなす、甲背適度に膨揚すれども著しき突起物なく粗なる疣を散布す眼窩不完全、甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後棘一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして横に突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗節の剪刃の間少く空隙を残し末節内縁に鈍齒を帶ぶ歩脚細長、爪節比較に短く稍彎曲す全身不規律なる毛茸を蒙る。

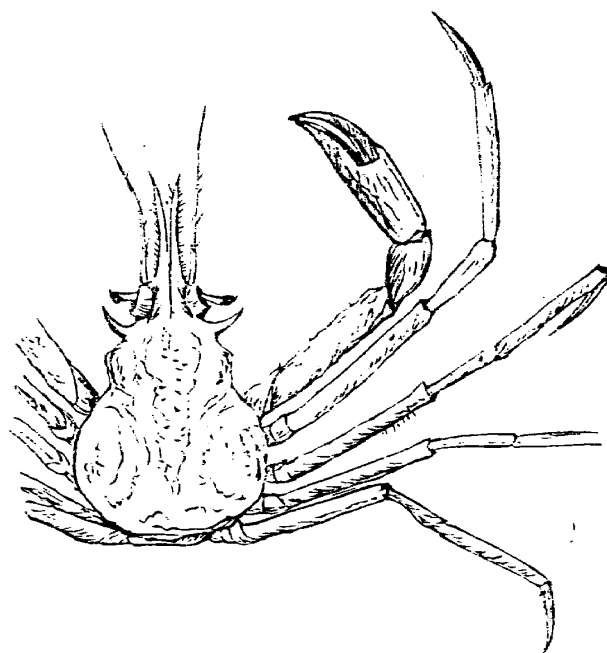
けせんがに

日本蟹類通説(寺崎)

(*O. gracilis*, *Dana*, 1852.

原著 *Dana*; *J. S. Expl. Exped. crust.*, Vol. I. P. 106

Pl. III. Fig. 2.



けせんがに (大然自)

全身微毛を蒙り硬毛を交へず頭角は細長にして兩眼距離より著しく長し脚は細長にして鉗脚第二脚と略ぼ長さを

等しく雄にありては歩脚の二倍位の太さを呈す其長節上面及び前面の縁に低き疣の列あり、鉗は稍や膨れ剪爪間に多少の隙あり低き齒を帶ぶ。

一、陸前氣仙郡小友、沿海、雄二(一九〇二年島羽源藏氏)

此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種名に冠す。

くもがに

*O. hirta*, Dana, 1852.

原著 U. S. Expl. Exped. Crust., Vol. I. P. 107. Pl.

III. Fig. 3.

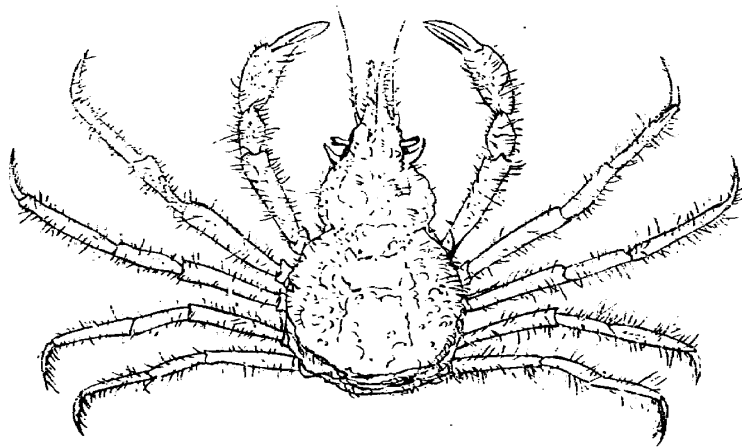
全身粗き茸毛を蒙り殊に脚に於て甚し頭角の長さ兩眼の距離より長からず、歩脚は細しと雖ども體に比しては長からず。

一、青森 雌一、(一八九九年十月)

米國にて此類の蟹を「スパイダー、クラブ」若くは單に「スパイダー」と呼ぶ由、今此の種に其譯意を命ず。

一八九九年一月米國より我大學へ寄贈せられたる標本中に (*Oregonia gracilis*, Dana ベーリング海オレゴン間五

乃至百三十五尋)と附票せる蟹あり良く發育したる雌なるが其脚及び頭角の有様、粗毛上に藻屑の附着せるの姿



くもがに (自然大)

は宛然クモガニ (*O. hirta*, D.) に似て而も前記の附票ありデナ氏の原著に記載する所に對照すれば確かに後種クモガニに適合す、知らず何處に誤謬あるや。

(239)

●おすじんがに屬 *Cyrtomnium*, Miers, 1886.

(イナクス族に入る)

甲殻は球狀にして、頭角は一對に分れ小觸角竇間の棘と鼎立す甲背數個の發達したる棘あり胃部は屈曲して殆んど垂直線をなす、大觸角は細長にして簡單なる基礎より發す眼窩極めて不完全唯頭角と鋭き後棘とによりて保護せらる眼は比較に細小なり外顎脚細くして小棘を叢生し甲背は數對の長き棘を突起し鉗脚並に歩脚前二對は共に棘針を數多列生し脚は一般に細長なり。

マイアース氏「チャレンジャ」號探險船の採集品によりて此屬を設け南亞群島より獲たる二種の蟹を包容せり左の一種は確かに第三新種として考へらる。

ねすじんがに

*C. owestoni*, sp. nov.

一相摸洋ヨドミ 雄一、(一九〇〇年三月オストン氏)

此奇異なる蟹の採集者オストン氏の名を以て種名となす甲殻背面微かに粟粒を散布し七個の棘針を突起す就中三個は前部に左右鰓部に各一個、心臟部に一對あり眼窩後

日本蟹類通説(寺崎)

棘の少し後に小針あり又た眼窩中縁上面にも小針あり甲殻の兩脇に鋸齒狀に列せる細針あり腹胸西部共に短くして細き針を散生す、眼は小さくして細く角膜より先きに少しく突起せり大觸角に粗毛あり鉗脚最長節の上縁前縁共に鋸齒狀の針列を帶び鉗節は縦にて四行の小齒列を呈し、兩節の中間節も亦數個の短棘あり剪部は稍や斜めに折れ、剪爪の中間少しく隙ありて爪の内面は各粒狀の齒列を帶ぶ。

歩脚は細長にして就中前二對は最長節に二列の針あり其れより次の節には針と長き粗毛とを列生す後二對の脚は裸出せり何れも爪節は比較に短くして少く曲れり、全身一般に毛茸を蒙らず。

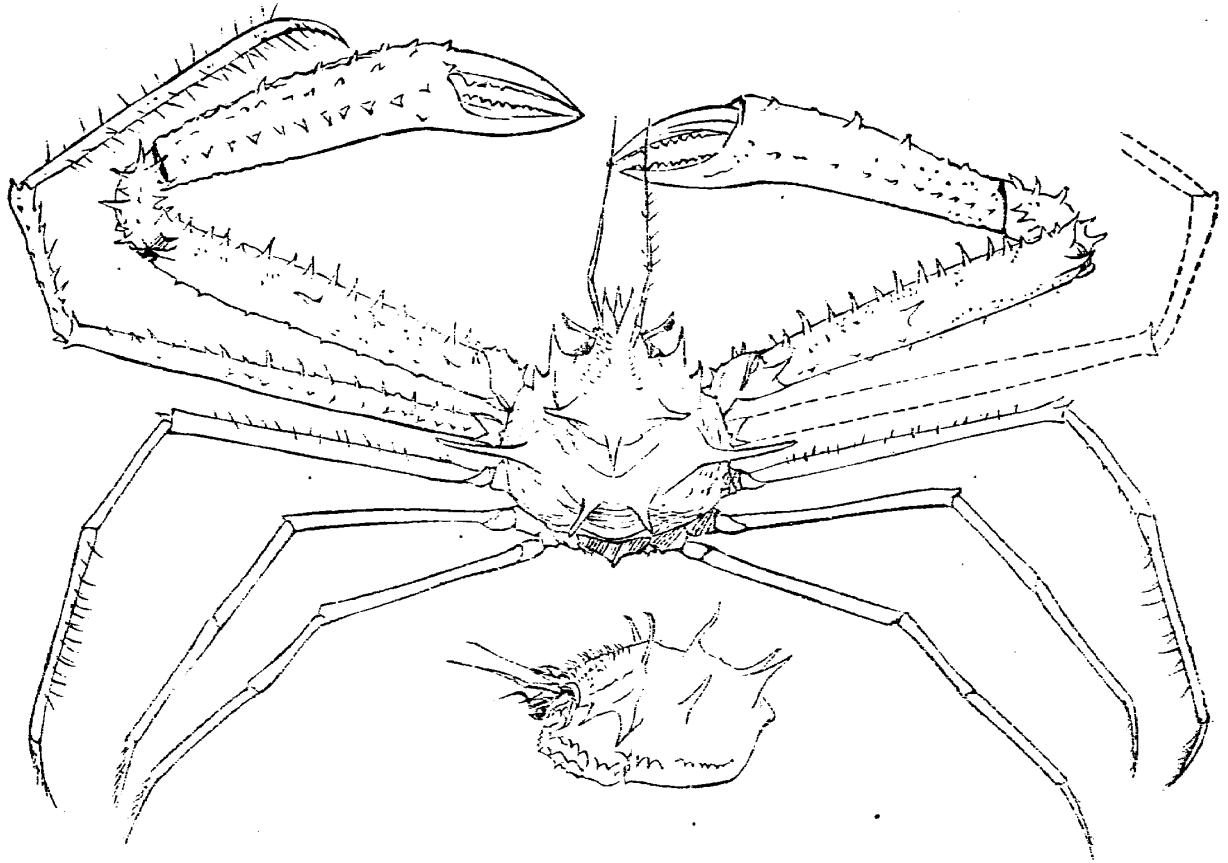
是れにて本邦産、銳頭類完結す。

此の他海外より理科大學へ寄贈せられたる標本如左、參考のため附記す。

*Sternorhinchus rostratus* (Tin.) Meinert. Norway. 産

*St. longirostris* (Fabricius), Miers. Naples, Italy 産

*Oregonia gracilis*, Dana. Behning sea—Oregon 間の産



をすくとがんに自然大)

*Empygnatha pustellifera*, *Stimpson*. Marthas Vineyard 産

*Chionocetes opilis*, *Kroyer*. North Pacific, N. Atlan-

tic. 等の産

(以上イナクス族に入る)

*Ilyas coarctatus*, *Leach*. Vineyard sound, 並に Bay

of Fundy 産

*H. araneus*, *Leach*. North Atlantic. 産

*H. lyratus*, *Deane*. Behringsea—Puget Sound 間の

産

*Hystennus longipes*, *Deane*. North Pacific 産

*Microphrys bicornutus*, *A.M. Edwards*. Florida,

West Indies 産

(以上マイア族に入る)

*Mithrax sculptus*, *Stimpson*. Florida N. W. Coast

of U. S.

*Liassa Chiragra*, (*Herbst*) *Leach*. 産地名遺失 但し

此の種は大西洋の産なり

*Urbina dubia*, M. Edwards. Woods Hall, Mass. 産  
*L. emarginatus*, Teuch. New England 産

(以上べりせり族に入る)



●奄美大嶋及沖繩採集旅行記 (承前)

箕作佳吉

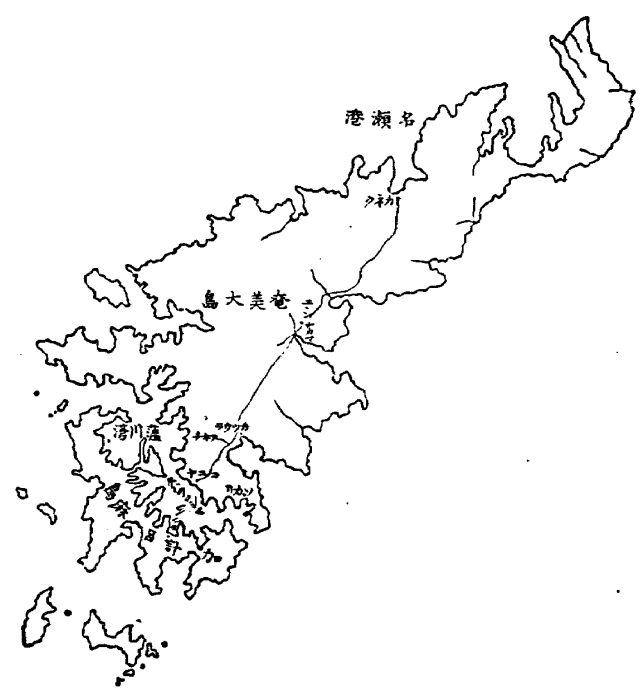
(241)

三月二十八日 昨夜より風雨烈し、是よりいざ採集と言ふ所にて此風雨は實につらきなり、家に閉ぢ込められ居る間に大嶋の瀬戸に付きて少し述べんに此瀬戸は大嶋と加計呂麻島との間に東南—西北東西に横はる海峡にして其長凡そ十五海里、其幅凡そ一乃至五海里、其深さ最も深き所にて三十五乃至四十五尋、海岸線非常に彎曲し天然の良港多し、且つ亞熱帯に近き事とて必ず水産動物に富めるなるべく採集には屈竟の場所ならんと想ひ余は多年之を試みることを渴望し居たりしに今回之を果すを得たるなり前號寫眞第一は俵小島の處より瀬戸を西北に向ひ同第二は東南に向ひ撮影したるなり第二は瀬戸の東口を示す尙ほ今回余の最も着目せしはナマコ類にして池田

奄美大島及沖繩採集旅行記(箕作)

君の最も渴望せしは星形蟲 (*Gephyrea*) なり竹下君は

奄美大島の略圖



扁蟲ヒラタムシに偏したり(はあられに)併し他の動物も決して怠りたる積ヒラタムシはなきなり、

午後三時頃雨少しく止みたれば我々の熱心最早制すべからず宿より西の汀に出で、汀岩石間の採集を試む餘りの獲物なご先づ *Gephyrea* (3sp.), *Synapta* (1sp. 一疋), *Chiridota* (1sp.), *Squilla* (小黒を班線), *Callianassa*, *Onchidium* (三崎のとは異なるれり), *Patella*, *Leptoplana*,